

# 甲賀市議会定例会

第5回甲賀市議会定例会  
が8月31日から9月28日ま  
での日程で開催されまし  
た。審議・可決された主な議  
案は次のとおりです。

## 委員の選任および推薦 (敬称略)

●甲賀市公平委員会委員  
山下 孝司

●甲賀市固定資産評価審査  
委員会委員

田中 正裕

辻 富子

竹内 重行

人権擁護委員

西村 泰雄

●平成21年度決算  
2～5ページに掲載

## 平成22年度補正予算

●甲賀市一般会計補正予算  
(第3号)

## 平成22年度補正予算

●甲賀市国民健康保険特別  
会計補正予算(第1号)他

9件

●甲賀市水道事業会計補正  
9件

●甲賀市水道事業会計補正  
9件

予算(第2号)

## 条例の制定

●甲賀市税条例の一部を改  
正する条例

●甲賀市民交流駅条例の一  
部を改正する条例

●甲賀市父子家庭等児童育  
成手当条例の一部を改正  
する条例

●甲賀市消防団員等公務災  
害補償条例の一部を改正  
する条例

●甲賀市特定農山村地域活  
性化基金条例を廃止する  
条例

●甲賀市猟区に関する条例  
を廃止する条例

●契約の締結

●工事名

水口スポーツの森陸上競  
技場フィールド整備工事

●契約額  
2億2,992万9千円

●契約相手方  
長谷川体育施設株式会社  
関西支店

## 決算審査報告

監査委員

相川 良和  
服部 治男

相川 良和  
服部 治男

平成21年度一般会計、13の各特別会計及び基金運用状  
況、病院事業会計並びに水道事業会計について決算審査  
を実施しました結果、計数、関係帳簿等を確認し、いずれ  
も適正であると認めました。

平成21年度は、一昨年秋の世界的な金融危機以降景気  
低迷が続く中、地方公共団体においても自主財源の根幹  
である税収入の減による厳しい行財政運営が迫られてい  
ます。

まず、一般・特別会計全体の単年度収支額は3億3千万  
円余の黒字決算となったところです。しかしながら、税・  
料金等の収入未済額は、19億円を超えており、また、不納  
欠損額も2億1千万円超となるなど、憂慮すべき事態と  
なっています。

この対策として、滞納債権対策課と所管課等との連携  
のもと、滞納額回収の取り組みがされていますが、引き続  
き負担の公平性の観点からも、悪質と判断される滞納者  
に対しては毅然とした姿勢で対応され、未収金発生を防  
止策及び早期回収を一層強化されるよう要請したところ  
です。

各部局においては、このような厳しい財政状況の認識  
に立ち、経費節減の努力をされ、結果、経常収支比率が前  
年度より4.6ポイント改善されたことは一定の評価を  
するものです。

今後においても、税収入の確保、未収金の回収等財源の  
確保に努められる一方、各施策・事業の必要性、重要性等  
も見極めた上で、限られた財源の重点配分と効率的・効果  
的な経費支出を図られ、よりよい市民サービスの提供が

なされるよう望むものです。

次に、病院事業会計決算では、当年度純損失約5千万円  
余りで、当年度未処理欠損金は約5億3千万円となっ  
ています。医師の確保が一段と厳しい状況下において、自治  
体病院の使命である地域医療の確保と、拠点施設の維持  
のため、病院改革プランを着実に実行され、健全な病院経  
営に努められることを要望したところです。

次に、水道事業会計決算では、当年度純利益約  
1億1千万円余りとなり、結果当年度未処理欠損金は約  
7億3千万円余りとなりました。今後におきましても、水  
道事業経営の改善に尽力され、経営基盤の強化に努めら  
れるよう望むものです。また、水道料金の未納について  
も、負担の公平性の観点から、引き続き滞納者の状況等を  
的確に把握され、未収金の確実な管理と徹底した収納対  
策に努められるよう望むものです。

最後に、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に  
よる甲賀市の健全化判断比率に関しては、実質赤字比率  
と連結実質赤字比率は、総務省が示す早期健全化基準と  
比較しますとこれを下回っており、良好な状況であると  
言えます。また、実質公債費比率、将来負担比率ともに早  
期健全化基準と比較すると下回っていますが、実質公債  
費比率について、地方債協議・許可制移行基準の18.0%を  
上回っていることから、財政硬直化の深刻な状況に至ら  
ないよう、今後の慎重な対応を望むところであります。

問い合わせ

監査委員事務局 ☎ 65-0656 ☎ 63-4577